若手教員支援サイト

学級担任のまなざし　05

Okayama Prefectural Education Center

R2.6.12[Fri]

「心の拠り所」

ある先輩教員がいました。教職経験の長い先生で、その年は1年生を担任していました。

始業前、その先生に用事があり、教室を訪ねました。その日は朝から暑い日でした。既に、1年生が数人、登校していました。一人の児童が「おはようございます！」と言って、教室に入ってきました。「おはようございます。」近くにいた私があいさつをしました。「おはようございます！」とあいさつを返してくれました。担任の先生も後に続きました。「おはようございます。よく来たね。」「うん！やっと着いた！」 私は、（えっ？）と思いました。（「よく来たね」って？）

その日の放課後、先生に「よく来たね。」のことを尋ねました。すると、こう言われました。「だって、今日、朝からとっても暑かったでしょ。1年生の子が30分以上かけて、ランドセルを背負って歩いてくるだけで、すごいって思わない？ 来て良かったって感じられる教室にしなくっちゃね。」「…そう考えるのか…」と思いました。

その先生が中学年を担任していたときのことです。

音楽の授業は専科の担当で、授業を終えた児童が次々と担任のいる教室に戻ってきます。廊下を歩いていた私に、こんな言葉が聞こえてきました。「おかえり！」「ただいま！」私は（「家でもないのに？」）と不思議な感じがしましたが、児童にとっては、教室が家のような居場所なんだと思いました。

「子どもたちの居場所を！」と大上段に構えなくても、普段の小さなところから心の拠り所をつくることを大切している様子がうかがえました。